

# いきもの ふれあいの森 通信

2025.3.14 第4号

2月22日（土）に松本市環境・地域エネルギー課の企画される『エコスクール』の一環として、「冬の自然観察会～小さな春を見つけよう～」がアルプス公園北側の「いきものふれあいの森」で開催されました。

当日は小雪がチラチラ舞う寒い日ではありましたが、2時間半程かけて植物や鳥や昆虫の姿を追いながら散策です。

集合は「森の入口休憩所」。市内の3組5名の参加者があり、講師の村上さよ子氏（自然観察の会ひこばえ代表）および内川潤季氏（山と自然博物館学芸員）の案内でスタートです。



講師の方からは色々な楽しいお話を聞かせていただきましたので、その一部をご紹介します。

＊クヌギの木の下では地面に落ちている“ドングリ”を拾い、小さな穴を指しながら「虫や蛾の仲間にはドングリの中に卵を産み付けて、幼虫の間はドングリを食べて育ち、成虫になるために外に出てくるのもあります。」

＊参加者の方が地面に落ちている“山まゆ”を見つけると、「山まゆは、幼虫～まゆ～成虫（蛾）と成長しますが、まゆは一本の糸で作られています。」



＊「花の丘」近くでは、落葉したカエデの木に2～3枚の枯れ葉が一對になってぶら下がっているのを見つけると、「この枯れ葉の中には“ミスジチョウの幼虫”が越冬しています。初夏に羽化します。」



＊山の中に入っていくと、コブシの枝先には銀白色のフサフサの“コブシの冬芽”が沢山ついていて、「もう少しするとこの綿も飛んで冬芽が開いて白いつぼみが顔をのぞかせます。」



＊山道を下っていると“冬の花わらび”を見つけ、「シダ植物なのですが、小さな穂になって花が咲いているように見えるのは孢子葉と言います。」



＊「古民家」の周辺まで来ると“ヤマガラ”が迎えてくれて、「森の里広場では、一年中いつでも見られる野鳥です。」



＊「森の里」広場の石垣には小さな紫色の“ホトケノザ”が咲いていて、「寒い中でも日当たりが良い所なので咲いているようですね。名前の由来は、器のようにつく葉の形が仏像の台座に似ていることから名づけられたようです。」

＊「森の里」広場では地面の上に盛り上がった土の山がいくつもありました。これは“モグラ塚”と言いモグラが地中を掘る際に土を押し出した跡で、「モグラはエサのミミズやコガネムシの幼虫を探しながら10cm程度下を掘って移動します。巣は木の根元の2mほど深さにあるようです。」



予定のコースを散策し「森の入口休憩所」に戻って本日の収穫の振り返りです。

山の中で拾ったドングリや山まゆを広げながら、講師の方の手持ち写真資料なども見ながら説明を聞いたり、クイズが出されたりして皆さん楽しませていただきました。



参加者の一人で自然や昆虫が大好きな小4の男子は「見たり聞いたり触ったり、楽しかったです。」と話してくれました。

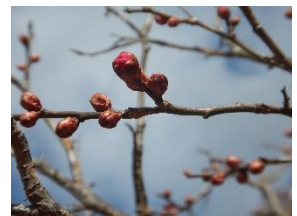
下の写真は、講師の村上氏の手作り標本で“生き物によって食べ方が違うんですよ”の実物です。左上から鳥が食べた松ぼっくり、虫食いのドングリ、リスが齧った松ぼっくり、ムササビが齧った松ぼっくり、下の左からネズミ齧ったクルミ、リスが齧ったクルミ、虫食いのドングリです。



普段は何気なく歩いているアルプス公園の山道ですが、生き物の知識があると色んな楽しみ方が出来ます。

これから春になり、さらに植物も賑やかになり鳥や虫たちも活発になりますので、アルプス公園北側の「いきものふれあいの森」に探しにいらしてください。

「森の里の広場」では福寿草の群生が見られ、梅の木は“梅ふふむ”と云うのでしょうか蕾の先がふつくと紅色が兆し始めています。



以上

## クイズです！

木々の枯れ枝に、枯葉に包まれて越冬し、初夏に現れてくる昆虫は何でしょう？

…ヒントは今回の通信の中にありますよ！

